

<ポイント版> 岐阜経済レポート（令和8年8月分）

【製造業】

- 製造業は、6月の鉱工業生産指数は前月比▲1.6%となった。ヒアリングでは、航空機部品については、需要の拡大に伴い製造ラインを増やしたとの声がある一方、自動車メーカーの新車発表のサイクルが長くなり、新しい金型の受注が極端に減少したとの声も聞かれた。
- 地場産業は、6月の鉱工業生産指数は、繊維工業、窯業・土石で下降した。ヒアリングでは、和紙の照明はインバウンドが好調で、アメリカ向けの輸出も増えているといった声がある一方、陶磁メーカーでは、原料や燃料等の高騰による製品値上げ要請が生じているものの、商品への販売価格に完全に転嫁できず収益は一段と先細りとなっているといった声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、7月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比50.4%増加となった。ヒアリングでは熱中症対策や職場の魅力向上、生産性の問題からエアコンを28基設置したといった声がある一方、設備投資を行いたいが厳しい状況といった声があった。

【個人消費】

- 個人消費は、7月の販売額は、全体で前年同月比2.0%となった。ヒアリングでは、単月での売上は7月歴代4位、客数は7月歴代1位となり、累計(4-7月)では売上歴代3位、客数は歴代1位といった声がある一方、先月同様、商品の仕入れ条件が厳しくなっており、9月以降も価格上昇の傾向は続く見込みといった声があった。

【観光】

- 宿泊者数は、前年同月を上回った。
- 宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 7月の制度融資実績は前年同月比65.1%増加となった。融資動向については中東情勢の影響による原材料の仕入れに備えるためや、円安の影響により木材、衣料の仕入れ額が高騰したことにより、運転資金の需要が高まっているとの声が聞かれた。

【雇用】

- 7月の有効求人倍率は1.43倍と前月比▲0.03ポイントとなった。ヒアリングでは、高卒者の採用は極めて厳しい状況で推移しているといった声や、固定費として人件費負担が大きくなっていくインフレ社会において、省人化設備投資が増え、従業員数を減少させる見立てで派遣型従業員はすでに減らしているといった声が聞かれた。

【景気動向】

- 6月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲3.2ポイント、7月の中小企業の景況感と同▲26.0ポイントとなった。